

平成30年度 第1回山高MIRAI（未来）プロジェクト兼活性化協議会 議事要旨

日 時	平成30年7月3日（火） 15:00～16:30
場 所	山県高等学校 ゼミナール室
出席者 （敬称略、 順不同）	<p>（委員）</p> <p>恩田 佳幸 岐阜県議会議員 宇野 邦朗 山県市副市長 石 神 真 山県市議会議員 伊藤 正夫 山県市教育長 大野 良輔 山県市教育委員 宇 野 睦 山県市商工会長 藤井 里樹 岐阜アグリフーズ(株)代表取締役社長 久保田裕司 山県市企画財政課長 長野 健一 山県市まちづくり企業支援課長 鬼頭 立城 山県市教育委員会学校教育課長 青木由美子 山県市PTA連合会会長 武藤 好伸 山県市立美山中学校長 廣田 直子 山県高等学校PTA会長</p> <p>（高校側）</p> <p>伊 藤 崇 校長 浅野 和道 教頭 愛敬 隆施 企業実習部長</p> <p>（県教育委員会）</p> <p>高橋 宗彦 教育総務課教育主管</p>
議事概要	<p>1 学校の現状と平成29年度の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度入学生から、160名募集に対してH28・140名、H29・125名、H30・135名と定員を満たしていない。入学生の出身中学校を地区別で見ると、H21頃から山県市内の割合が30%弱に減少し、岐阜市や関市からの割合が増えている。山県市の人口も減少し続け、結果、中学生も減少していくことになる。 ・登校時バスの増便により、交通アクセスは良くなった。 ・卒業生はおよそ60%が就職し、製造業はその6割、就職地域は、岐阜市、関市、山県市の順で多い。道路が整備され、自動車の運転免許があれば、通勤に支障はなくなったことにもよる。 ・デュアルシステム（企業実習）では、14名が実習中である。 ・次年度から単位制普通科となり、次年度入学生が2年生になる平成32年度から類型を選択し、多様な学びができる学校となる。 <p>○山県市教育委員会より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MIRAI(未来)プロジェクトのビジョン作りに向け、MIRAI(未来)アドバイザーを委嘱した。校長のビジョンに基づき、職員が一体となることで活性化は実現する。ビジョンなしにその計画はできない。工業類型の魅力発信のためのパンフレットを作成する。1年生の間に、中学校とは違うやり方で、例えば、総合的な学習の時間を、類型選択に絡めた授業を展開することが望まれる。保護者に、地元企業を知ってもらう内容も考える。

2 今後の活性化の実施計画について

(1) 事業計画（案）と予算（案）

- ・MIRAI(未来)プロジェクトの予算で、タブレットの追加購入と、プロジェクターの購入を計画している。ICTを活用した授業を展開したい。
- ・県の事業として、生徒のコミュニケーション能力の向上に資するため演劇ワークショップを3回の予定で計画し、すでに2回実施した。
- ・コミュニティースクールについての情報収集のために、県内外の中学校や高校へ視察を予定している。

(2) 意見交流

- ・平成31年度の学校案内のパンフレットは、山県高校の変化が伝わらない。よりアピール性のあるものに変更してもらいたい。
- 山県高校の課題については理解している。外に向けてどのように発信していくかが重要である。高校見学会が7月末に控えている。訴求力のあるパンフレットを作るため、改訂版を検討中である。
- ・受験生を増やすために、学校として今までにどんな努力をしてきたのか。
- 校長をはじめとして、教員が近隣の中学校に説明にまわっている。合同練習や合同演奏など、部活動の交流も盛んに実施している。
- ・地元の子どもを育てるため、部活動顧問に力のある顧問を配置して欲しい。
- 特徴的な部活動を何とか活性化させたいが、生徒の資質も変化してきている。
- ・デュアルシステムについては、現在、普通科2年生14名が実習中である。概ね評判はよい。来年度の希望者は10名前後で、昨年度募集時の約半分である。
- ・最近、中学生が高校を選びきれていない。中学生個々の多様な希望に沿うような仕組みを作りたいが、ハード面の制約の中で、何ができるかを考えたい。
- ・単位制は、地元の企業などにどのように発信できるのか。
- ・デュアルシステムは工業類型の核になるのではないかと期待する。
- ・単位制で、生徒の希望が多方面にわたる場合、教員の配置などはどうなるのか。
- 単位制の多様な選択に対応するため、教員数は若干増えるものと思われる。
- ・生徒が自信をもてるよう、発表や活動できる仕組みを作ることが大切である。地元のイベントなどにそういった場を作ってはどうか。
- 次年度のデュアルシステムの希望者が、あまりいない現状である。また、就職先をなかなか決められない生徒が増えてきている。地域貢献に、現在かなりの生徒が協力している。工業類型については運用が難しい。人と物がないうちで始まろうとしているが、外部の施設での実習を単位としていくことも検討中である。
- ・デュアルシステムについて、中学生や保護者にもっと伝えてほしい。
- ・地元の子を地域の企業に採用したい。生徒の自主性を育ててほしい。自分が興味をもった仕事を、デュアルシステムで実際に体験することで知ってもらいたい。探求心や向上心をもつためにも、コミュニケーション能力は不可欠である。生徒同士や先生との会話が、生徒には必要だと思う。
- ・定員を満たしていないが、よい生徒はたくさんいる。学力が十分でない生徒も少なくはないが、生徒が楽しく登校できる環境を、頑張って作っていきたい。